

今起きている薬害 「子宮頸がんワクチン」

～これ以上被害者を増やさないために～

立教大学院コミュニティ福祉学研究科博士前期課程
HPVワクチン薬害訴訟全国原告団代表

酒井 七海



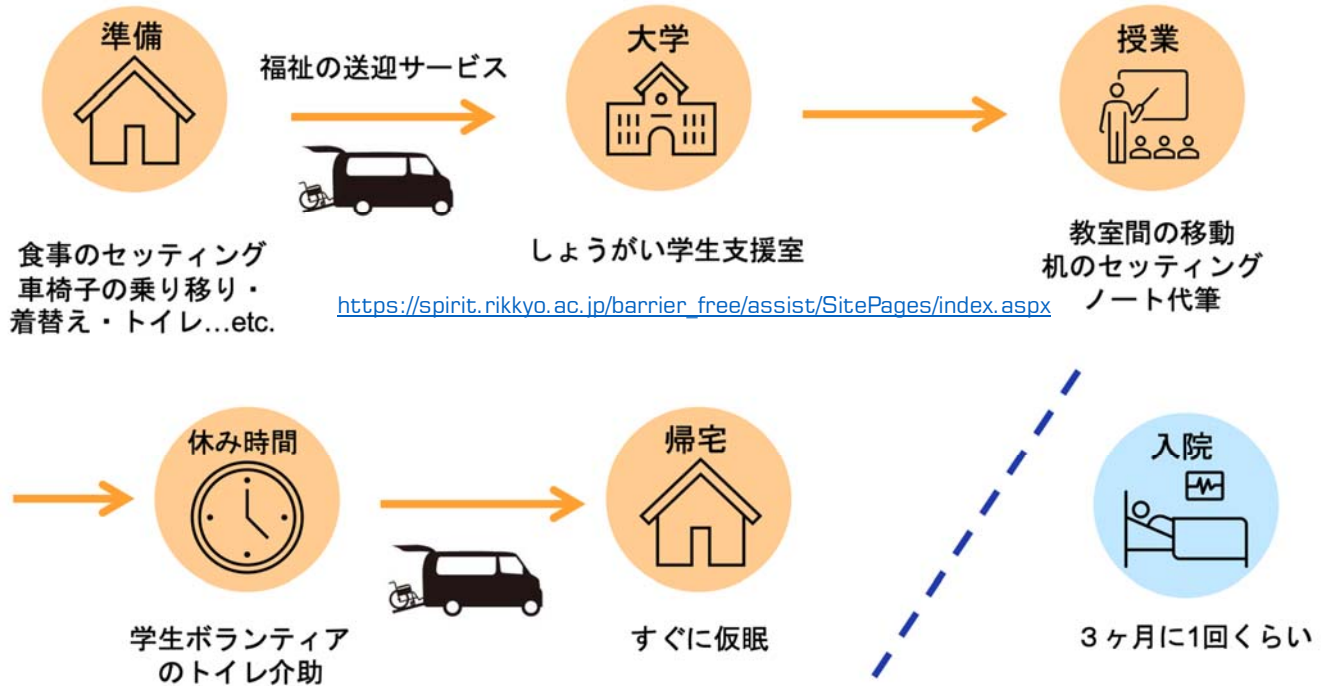
自己紹介

酒井七海



- 立教大学
コミュニティ福祉学部 コミュニティ政策学科卒業
- 立教大学院
コミュニティ福祉学研究科 博士前期課程2年 在籍中
(ソーシャルワーク研究領域専攻)
- 研究テーマ
『「認められない病い」を抱える人が福祉的支援に
たどり着くプロセス』
- 身体障害者手帳1種1級、高次脳機能障害 当事者
- 簡易電動車椅子ユーザー
- HPVワクチン薬害訴訟全国原告団代表

私の学生生活（コロナ前）



3

道のり

健常

手帳を取得
できない障害

未診断患者

少し歩ける
車椅子ユーザー

HPVワクチン
の副反応

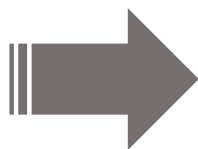
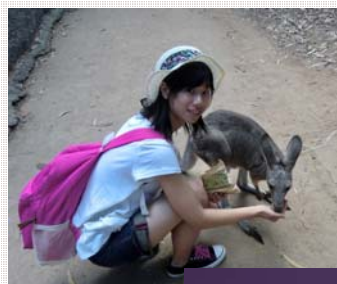
目に見えない
障害

杖ユーザー

生活に介助が
必要な重度障害

難病患者

4



大学1年
(ロフトランドクラッチ+装具
or 車椅子)



高校時代



HPVワクチン
の副反応



大学3年
(自走車椅子)

大学院1年
(簡易電動車椅子)



5

本日の内容

1. HPVワクチンとは
2. 副反応発症からの10年
3. 直面している問題
4. 今、伝えたいこと
5. 参考URL



6

HPVワクチンとは？

- ・発生が多くがHPV(ヒトパピローマウイルス)の感染に起因するとされている、子宮頸がんの予防を目的に開発されたワクチン、導入当初は「**子宮頸がんワクチン**」と呼ばれていた
- ・日本ではGSK社の「サーバリックス」と、MSD社の「ガーダシル」が用いられている
- ・2010年～ 公費助成開始(任意接種)
- ・2013年4月 定期接種(小6から高1の女子が対象)
- ・2013年6月 深刻な副反応が多数報告され、厚労省が接種の積極的干渉を一時中止
- ・2016年7月 全国4地裁(東京・名古屋・大阪・福岡)に63名が一斉提訴(現在の原告は130名)
- ・2018年3月 東京で行われた国際シンポジウムで、コロンビア、スペイン、イギリス、アイルランドの被害者家族が参加し、各国から同様の被害報告
- ・ **重篤な副反応の発生率**
→他の定期接種ワクチン(ポリオや風疹等)と比較すると、100万回接種当たりの重篤副反応報告は平均して**8倍以上**、副作用救済制度における死亡・障害の認定数は平均して**15倍近く**

※ワクチンの問題点や訴訟の詳細については、事前資料をご参照ください

7

【接種前】

- 健康で、大きな病気をしたことはなかった
- 趣味:ピアノ、書道
- 第一志望校に合格
- 高1の夏
→憧れだった海外語学研修に参加
- 将来の夢は弁護士

【接種の動機】

- 市からの通知、女子校という環境
- 「がんをワクチンで防げる」という驚き
- 夢を叶えて働きたい、結婚して家庭を築きたい...という将来の希望
- 2月までに打たないと対象じゃなくなる！

【接種と直後】

- 2011年2月(高1,16歳) サーバリックス1回目
→生理が来なかった
- 2011年3月 サーバリックス2回目
→翌日の夜に意識消失、腕の痛みと腫れ、39度超えの発熱
- 3回目は接種せず

※注射そのものの痛みは特になかった

8

◇高校2年
→17歳
→2011年
→接種後1年目

◇高校3年
→18歳
→2012年
→接種後2年目

何か変。
疲れてるのかな？
みんな、こういうもののなの...？

「自分の身体への不安」
と
「1年後の大学生活への期待」

高校2年

- 最初の異変...
- 階段で失神、救急搬送、
右手首を骨折
- 大学病院を受診：原因不明
- その後、色々な不調が...

- ・突然の失神
- ・めまい、耳鳴り、頭痛
- ・教室の場所が分からない
- ・誤字脱字を指摘される
- ・授業中の居眠り
- ・ピアノがうまく弾けない...

高校3年

- 高校生活最後の時期、大学
受験目前で初めての入院
- 現役での進学を断念
- 周囲の協力があり、高校を
無事に卒業

- ・突然の失神、頻脈
- ・手足の痺れ、震え、脱力感
- ・頭痛、聴力低下、めまい
- ・倦怠感 etc...

◇浪人生活の2年
→19歳
→2013年
→接種後3年目

→20歳
→2014年
→接種後4年目

よく分からない身体の異変や
理解されない苦しさを
分かり合える仲間との出会い

自分の状況(残存能力/苦手)を
把握
障害者としての人生のスタート

浪人1年目

- 予備校入学、通えたのは4月だけ
- ▶全国子宮頸がんワクチン被害
者連絡会との出会い
- 「副反応」の診断を受ける
- 医療機関で理解してもらえない
苦しさ

浪人2年目

- 宅浪する
- 静岡の病院との出会い
- 高次脳機能障害の診断
- 初めて治療を受ける
- 身体障害者手帳を取得
- 大学合格！
- ・ただし、進路は変更

- ・繰り返す失神、倦怠感、過眠、手足の痙攣
- ・記憶障害、運動障害の悪化：杖、車椅子生活
- ・1/4同名半盲(視野欠損)、高次脳、右上下肢不全麻痺

◇大学1年
→20歳
→2015年
→接種後5年目

合理的配慮との向き合い方
治療と学生生活の両立
声をあげることへの思い

高校までの同級生と自分
大学の同期と自分
どちらの間にもあるギャップ

◇大学2年
→21歳
→2016年
→接種後6年目

大学1年

- 障害学生としての歩み
- 自治体の協力
- 鹿児島に通い始める
- 新たな治療
- ▶・厚労省: 追跡調査
- 実名公表の決意
- ▶・全面解決要求書を提出

大学2年

- ▶・原告団発足、全国一斉提訴
- フォーマル/インフォーマルなサポートを両方活用する生き方
- 社会福祉学との出会い
- 社会福祉士という新たな夢
- しかし、出席率の壁

- ・変動の激しい体調
- ・身体の疲労+脳の疲れやすさ
- ・左半身の運動障害が出始める

- ・光や音への過敏
- ・全身の硬直・不随意運動発作
- ・身体の痺れ、筋肉痛

11

◇大学3年
→22歳
→2017年
→接種後7年目

学生生活どころではない
日常生活を立て直さなければ...!

大学の同期の卒業
(就職、国試合格)
私は...?

◇大学4年
→23歳
→2018年
→接種後8年目

大学3年

- 全く立てなくなる
- 家の中も車椅子生活に
- 全身の脱力+排尿障害
- 今までの学生生活を続けられなくなる
- ほぼ、休学状態
- 自分で介助ボランティアを募集することを決意

大学4年

- 様々な支援を組み入れて学生生活に復帰
- 自治体の協力と応援
- 新たな社会資源を開拓すること
- 父が脳出血で亡くなる
- 自分に合った治療と初めて出会う!

- ・四肢体幹機能障害(両手握力0、両下肢全廃、座位不能)
- ・寝返りや移乗も介助、排尿障害(介助で導尿)

12

◇大学5年目
→24歳
→2019年
→接種後9年目

環境整備と社会資源の活用で広がった自由
と
体調悪化で見えない将来

自宅をバリアフリー
リフォーム
せっかく見つけた自分に
合った治療を続けられなく
なる
→どんどん悪化する体調
卒論を提出できない危機
なんとか治療を再開

- ・常にある眼振と複視
- ・過眠と発作で意識があるのは1日で
3,4時間だけ
- ・顎と舌の不随意運動

5年の・学・活
(1年留年)

5年間=1,827・

その間に…

26回、650・間・
院



◇大学院1~2年
→25歳
→2020年
→接種後10年目

→26歳(現在)
→2021年
→接種後11年目

予定を立てられない日々
10年経っても症状が悪化し、治療法はない

新型コロナウイルスの
影響で鹿児島に行けな
くなり、今までのように
治療を受けられない
徐々に体調が悪化
→オンライン授業でも
参加できない現状
突然ショートする脳

- ・自律神経障害(散瞳、頻脈、無呼吸、低血圧、発熱)
- ・中枢性の睡眠時無呼吸→寝る時は呼吸器を使用



医療機関の対応

- ・適切な治療まで3年
- ・25ヶ所以上の病院を受診
- ・ヒステリーや詐病と言われる
- ・鹿児島等、遠方での治療

国の対応

- ・把握されていない現状
- ・追跡調査の漏れ、解析の不備
- ・機能していない指定病院
- ・副反応の認定の壁

直面している 問題・課題

救済制度（PMDA）

- ・申請にかかる費用
- ・認定審査にかかる時間 ex) 3年弱
- ・その間に症状が変化する
- ・基本は入院のみ、交通費等は含まれない

福祉制度

- ・認められない病、制度の谷間
- ・障害者手帳の取得が難しい
- ・難病として認められていない
- ・自治体ごとの対応や解釈の差
- ・「前例がない」の壁

15

最近の動き

○2013年6月：積極的接種の勧奨を中止

- ・予防接種法によると、定期接種とは「国が積極的にワクチンを推奨すること」
- ・しかし、HPVワクチンは定期接種に分類したまま、勧奨を中止

**「副作用の頻度が明らかになり、適切な情報が提供されるまでは、
定期接種を積極的に推奨すべきではない」**

○2020年：厚労省の検討部会「自治体を通じて接種対象者に個別送付をする」との方向性を提示

- ・積極的接種勧奨を中止とした国の方針は全く変更されていない
- ・にも関わらず、「周知」という名目で自治体から個別送付することを求める
→自治体（市町村）が非常に困惑している

この間、 国がしてきたことは？

→被害の実態把握、副反応に対する
診療体制を整える等、一定の施策

しかし、その中身は...極めて不十分

- ・厚労省指定の協力医療機関が
患者を詐病扱い
- ・疫学調査や追跡調査において、
調査の対象者や症状が限定的

10年経っても...

- 副反応の症状、頻度、経過が正確に
把握されていない
- 治療法も未だにない**
- 予防接種に副反応はつきものという
が、実際には患者の存在を認めない
- 指定病院はあるが、ほとんど機能して
いない
- 救済制度の仕組みはあるが、これも
十分に機能していない

この状況で、接種者に十分な情報提供が
できていると言えるのか？

17

私が、私たちが、生きづらいのはなぜ？

障害が重いから？
治療法が分からな
い病気だから？

怠け、詐病、
気持ちの問題。
副反応なんてない！
そんなの嘘だ！！
君たちのせいで将来の
子宮頸がん患者が増える

障害学生として
難病患者として
社会福祉を学ぶものとして
考えてみると...

18

私たちが生きづらいのは...

- 生きることを困難にする激しい症状があるから
- 生活に支障のある障害を認めてもらえないから
- 助けを求めた先（医療、福祉、教育etc.）で、SOSを受け止めてもらえないから

『医療から、社会から、理解されない病いだから』

+

【このような状況に陥ると、社会資源にも、様々な当事者のコミュニティにも、アクセスすることが難しくなる】

この病気を認めてもらえなければ、状況を変えられないのでは？

19

治療法の研究促進
治療体制の整備

教育や就労
の支援

今、裁判で求めていること

副反応被害についての
無理解・偏見の解消

国民に対する
適切な情報提供

20

一番伝えたいこと

助けて欲しいだけ
なのに、自分を
否定されて、
時にはバッシング
を受けることも…

反ワクチンでも
反医学でもありません

全ての予防接種が
危険と主張しているの
ではない。
ただ、必ず副反応は一
定数発生する

「少数だから仕方ない」では
なく副反応の治療体制や
支援の整備が必要不可欠

がんの患者さんも
副反応患者の私たち
も、願い・向いて
いる方向は同じはず

それは、
【より若い世代の女性の将来の
健康が守られる】こと

21

最後に…

- ◆ ワクチンは誰もが経験する最も身近な薬剤です。多くの「健康な人」が使う薬でもあります。社会的に必要なものもたくさんあるでしょう。
- ◆ でも、**あなたに、あなたの家族に、副反応が出たらどうしますか？**
- ◆ 治療して欲しいと思いませんか？これからの生活が不安になりませんか？
社会のためなら、少数の犠牲は仕方ないと割り切れますか？
- ◆ **闘わなければ、治療してもらえない、社会資源を活用できない、
そんな社会で安心して予防接種を受けられますか？**
- ◆ 本当の意味での「感染症と共に生きる社会」を目指すために、
私たちの声に耳を傾けてください

22

団体紹介

HPVワクチン東京訴訟支援ネットワークとは？

HPVワクチン薬害訴訟を支援し、HPVワクチン薬害被害者の救済と薬害根絶のための活動をおこなう、個人参加の会です。

■ 支援ネットワークの主な活動

- ・ 裁判傍聴に参加する
- ・ 被害者の訴えを聞く学習会を開催する
- ・ 被害者をささえる
- ・ HPVワクチン薬害について学習する
- ・ 学んだことをまわりの人に伝える
- ・ 薬害をなくす仲間を増やす

また、支援ネットワークでは、定期的に活動の報告や裁判傍聴記録をまとめた支援ニュースを発行しております。

オンライン学習会
など開催中！

<https://hpv-yakugai-shien.net/>

ぜひ、
副反応に苦しむ
患者の生の声を
聞いてください！

【参考URL】

- HPVワクチン薬害訴訟全国弁護団
 - HP : <https://www.hpv-yakugai.net/>
 - 公式Twitter : <https://twitter.com/hpvvlawyer>
 - YouTubeチャンネル :
<https://www.youtube.com/channel/UCoWTfC6WT5011jjMWInkk3g>
- HPVワクチン東京訴訟支援ネットワーク
 - <https://hpv-yakugai-shien.net/>
 - 全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会HP
 - <https://hpvv-nonono.wixsite.com/mysite>